

静大 AI 時事学び進化コピー

「人、動く。投票、変わる」 「解散好きに告ぐ」

二十一日に投票される衆院選を前に、静岡大情報学部の狩野芳伸准教授の研究室が開発した人工知能(AI)に、新たにキャッチコピーを作ってもらった。六月の県知事選での啓発コピーに続く試み。今回は中日新聞の記事テキストを学習させ、時事問題にも対応できるようにすると「良かった! 解散あった!」など、人間がドキッとしたり、思いつかなかったりするようなコピーを生み出した。(相沢紀衣)

考える
選ぶ
10.22 衆院選
おかげ

「憲法」「投票」「増税」「ばらまき」の七つのキーワードでコピーを作成してもらい、計二千百個から選んだ。中日新聞社に掲載された一年分の記事データをAIに取り込むと、主語や述語を判断して短文のコピーが瞬時に量産された。時国会の冒頭で解散したことを皮肉るよう。「公約」と入力すると、AIがどうと想像したのか「100%も、200%も、42・19

- 人、動く。投票、変わる
- 初投票をどうぞ
- 正直、老若男女が喜ぶ投票って結構難しい
- 投票もSNSだからさ
- 公約させたいものがある
- 公約?揚げパン美味しいよね!それ給食!
- 読まぬは、公約先生の恥
- 100%も、200%も、42.195%も経済政策
- 乗ラーナ、政変!
- 政権も、大切なのは「品質」です
- 憲法という、愛のビタミン
- 出る憲法は打たれる
- いい憲法してますか?
- 10年後は、AIが解散神だ
- 良かった!解散あった!
- 解散好きに告ぐ
- 解散は感覚だ
- もう増税しないから、ここでさせて
- 増税男子
- もしも、ばらまきが、新巻だったら。

県知事選に続き創作

5%も経済政策」と不思議なコピーが編み出された。狩野准教授は「公約から経 推測する。乗ラーナ、政変!」や

「憲法という、愛のビタミン」など、一見意味がわからないが何かを示唆するようなコピーも。中心となって開発した同研究室の四年岩間寛悟さん(三)が気に入ったのは「初投票をどうぞ」。「自分も衆院選は初めて。これからずっと持てる権利の記念として、自分の思いを伝える投票にしてほしい」と話す。

AIの作るキャッチコピーは投票の啓発にも取り入れられる予定だ。浜松市浜北区では、県知事選の報道の一環で六月二十三日付本紙朝刊で報じた「当選人形は、もう止めよう」や「国民を休んでませんか」などのコピーを印字し、来年三月に高校三年生に配布することを検討している。担当者「独自性があり若者が面白がってくれるかもと思った。選挙に興味をもってもらえれば」と話す。

岩間さんは「AIは人間が気づかないところに注目してくれる。『皆が入れるから自分もここに投票しよう』など多数派に流されるコピーを打破してくれるといい」と期待を寄せた。

AIがつくった衆院選のキャッチコピーを見ながら議論する狩野芳伸准教授と学生(浜松市中区)



静岡大学 情報学部 何野研究室
キャッチコピー自動生成システム

「このひとを幸せにしたい」そんな国民を幸せにしたい。

野党よりも、最寄りの壁。

100%の、政府なんてないから。

